

# けいれん発作様の症状で発症する孤発性クロイツフェルト・ヤコブ病 とてんかん重積における脳波上の差異の解明

研究分担者：東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科脳神経病理態学（脳神経内科）三條伸夫

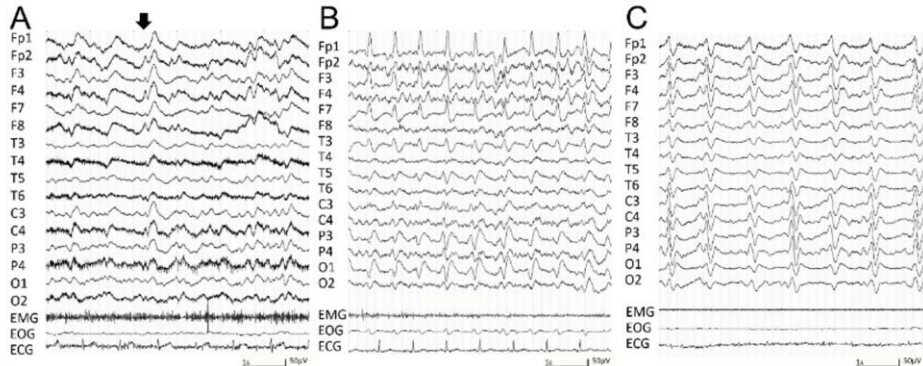
## 1. MM1/古典型 sCJD群の脳波上のepileptiform discharge およびMM1/古典型 sCJD群、てんかん重積(SE)群における出現頻度

MM1/古典型 sCJDおよびてんかん重積の脳波において、以下の3種類のepileptiform dischargeを解析した。

A. 正中矢状面に沿った対称性の高振幅鋭波または棘徐波複合(central sagittal sporadic epileptiform discharges; CSSEDs)

B. lateralized periodic discharges (LPDs)

C. generalized periodic discharges (GPDs)

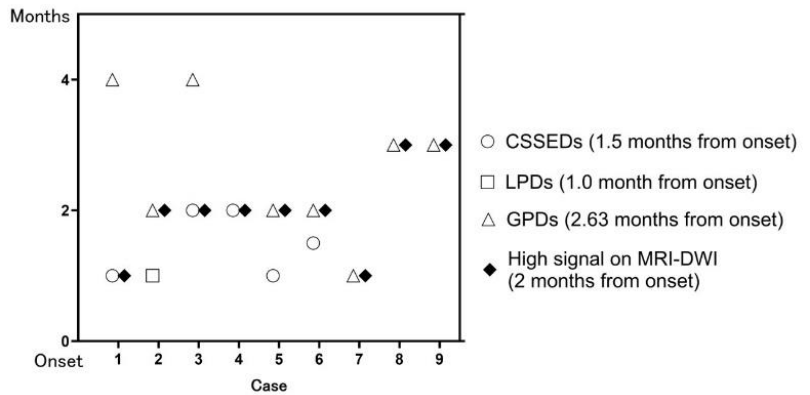


CSSEDs	sCJD	SE
陽性	5	1
陰性	4	19

LPDs	sCJD	SE
陽性	1	2
陰性	8	18

GPDs	sCJD	SE
陽性	8	4
陰性	1	16

## 2. MM1/古典型 CJD群におけるepileptiform discharge出現時期



### 解 説

- CSSEDs、LPDs、GPDsのsCJD診断特異度は、SE群との鑑別において、それぞれ95%、90%、80%であった。
- MM1/古典型 CJD群においてCSSEDs、LPDs、GPDsは5例(55.6%)、1例(11.1%)、8例(88.9%)に検出され、発症から各epileptiform discharges出現までの平均期間は、それぞれ1.5カ月、1カ月、2.63カ月であった。CSSEDs、LPDsの出現はGPDsに先行した。